

# 人口問題の時代

日本社会の最大の長期的課題は「人口問題」です。昨年の人口減少数は50万、地方中核都市くらいの日本人口が毎年消えています。現在流行中の新型コロナウイルスもこの傾向を加速させる恐れがありますし、感染人口の変動も一種の人口問題とみることも出来ます。こうした変化がどうして、どのようにおきているのか、最新の「人口学」の見地から見ていきたいと思えます。

## ■担当講師■

**稲葉 寿** (東京大学大学院数理科学研究科教授)

**林 玲子** (国立社会保障・人口問題研究所副所長)

**加藤 久和** (明治大学政治経済学部教授)

**小西 祥子** (東京大学大学院医学系研究科准教授)

**是川 夕** (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長)

**岩澤 美帆** (国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長)

**赤川 学** (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

**石井 太** (慶應義塾大学経済学部教授)

**黒須 里美** (麗澤大学国際学部教授)

詳細は裏面を  
ご覧ください。

## 講演内容

- 4/17 【人口学事始め】** 講師:稲葉 寿(東京大学大学院数理科学研究科教授)  
現代日本の最大の問題は人口問題です。2019年に生まれた日本人の子ども数は86万人、一方で、死亡数は137万で戦後最大、差し引き51万人の人口減少がおきました。地方中核都市が一つ消えるくらいです。高齢化率も28パーセントに達しました。人口対策はまったなしです。そのためにはヒトがどのような法則で生まれ、生きて、死んでいくのか、その集大成として人口はどう変化するのか、を知らなければなりません。それを研究するのが人口学で、現代社会の最も基本的な教養だと思います。人口問題講座の端緒として、人口学はどういうものかを紹介したいと思います。
- 5/15 【世界の人口- 現在・過去・未来】** 講師:林 玲子(国立社会保障・人口問題研究所副所長)  
日本では人口減少が恒常化していますが、世界においても「人口爆発」は過去のこととなりつつあり、今後はアフリカ地域の人口増加と世界的な人口高齢化が大きなトレンドとなっています。世界人口の歴史を振り返りつつ、未来の世界はどのように展開していくのか、出生・死亡・移動といった人口要因から解説します。
- 6/12 【経済学から見た人口問題】** 講師:加藤 久和(明治大学政治経済学部教授)  
世界の国々では豊かになるにつれ少子化が進み、これが高齢化を促しています。一方、人口が高齢化すると年金や医療といった社会保障制度に影響を及ぼし、これが経済成長にも影響を与えます。この回の講座では経済と人口の相互関連をテーマに、人口減少社会の課題についても解説します。
- 7/3 【日本における少子化と不妊】** 講師:小西 祥子(東京大学大学院医学系研究科准教授)  
日本は世界で最も多くの不妊治療が行われている国です。なぜでしょうか？不妊に関する統計データとともに、不妊の原因について生物人口学的な視点から解説します。また、少子化と不妊の関連についてもお話ししたいと思います。
- 8/21 【人口問題と移民】** 講師:是川 夕(国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長)  
現在、日本では外国籍人口が急速に増加しています。こうした背景には日本が少子高齢化により恒常的な人手不足に陥っていることや、アジア諸国を中心とした海外からの労働力送り出し圧力が高止まりしていることがあると考えられています。一方、受け入れ社会である日本の人口構造や経済社会がどのような影響を受けるのかについては、必ずしも明らかではありません。本講義ではこうした点について、人口、労働市場への影響、治安、アイデンティティといった論点についてわかりやすく解説したいと思います。
- 9/11 【日本人の結婚はどこに向かうのか:結婚難の理由と未来】**  
講師:岩澤 美帆(国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長)  
恋愛や結婚・出産は個人的なことですが、個人をとりまく社会とは切り離すことができません。結婚が個人や社会にとってどのような役割を果たして来たのかを踏まえた上で、結婚の諸側面の変化や国際・地域比較について、人口学的データで示し、今日の日本における結婚の減少を説明し、今後の展開を考えてみたいと思います。
- 10/2 【少子化問題に答えはあるか?】** 講師:赤川 学(東京大学大学院人文社会系研究科教授)  
日本最大の社会問題とされる少子化に解決策はあるのでしょうか。いろんな政治家や専門家が多くの解決策を提示していますが、それらは本当にうまくいくでしょうか。社会学の理論と方法に基づいて、少子化が発生する社会的要因と、その解決策がもたらす帰結の双方に目を配りながら、ともに考えてみたいと思います。
- 11/6 【日本の長寿化のゆくえ: 人生百年時代は来るのか?】** 講師:石井 太(慶應義塾大学経済学部教授)  
最近、「人生百年時代」という言葉をよく耳にするようになってきました。しかし2018年の平均寿命は男性81.25年、女性87.32年であり、まだまだ百年には遠いように思われます。そこで、果たして「人生百年時代」は来るのか、人口学的な将来推計に基づく日本の長寿化のゆくえを解説しながらお話ししたいと思います。
- 12/4 【歴史人口学からみた結婚と家族】** 講師:黒須 里美(麗澤大学国際学部教授)  
歴史人口学の最先端にある研究成果をベースに、結婚と家族をめぐる私たちの「運命」を長期的、比較的視点から議論します。早婚・皆婚であった江戸時代はまた離婚・再婚文化があったともいえるほど結婚が流動的な時代でした。歴史人口資料が語る寿命40年に満たない時代の庶民の人口学的実態に迫り、現代家族への継続性・非継続性を考えます。

## 講師紹介



### 稲葉 寿(東京大学大学院数理科学研究科教授)

人口学と感染症疫学における構造化個体群ダイナミクスの研究に従事。受賞:日本人口学会学会賞(2004) 著書:『Age-Structured Population Dynamics in Demography and Epidemiology』(Springer, 2017)



### 林 玲子(国立社会保障・人口問題研究所副所長)

人口と開発、国内・国際移動、国際保健、世界的な高齢化等の研究に従事。国連人口開発委員会政府団員。都市人口を使った世界歴史人口推計に関する論文で、日本人口学会優秀論文賞受賞(2010年)



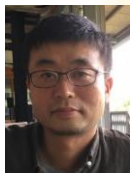
### 加藤 久和(明治大学政治経済学部教授)

研究分野:人口経済学、社会保障論、計量経済学。著書等は『人口経済学』(日経文庫)、『世代間格差—人口減少社会を問いなおす』(筑摩新書)、『8000万人社会の衝撃』(祥伝社新書)など。



### 小西 祥子(東京大学大学院医学系研究科准教授)

専門は人類生態学、生物人口学。妊孕力(妊娠しやすさ)や不妊に関する調査研究に従事。著書:『Biodemography of fertility in Japan』(Springer、玉置えみ、吉永淳氏との共著)



### 是川 夕(国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長)

移民政策の国際比較や国勢調査などの公的統計データや独自の調査に基づいて、移民・外国人とともに暮らす社会はどうあるべきかについて日々、研究している。OECD移民専門家会合(SOPEMI)メンバー。主な業績は「移民受け入れと社会的統合のリアリティ—現代日本における移民の階層的地位と社会的課題」(単著、2019年、勁草書房)、「人口問題と移民—日本の人口・階層構造はどう変わるのか」(編著、2019年、明石書店)他。



### 岩澤 美帆(国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長)

専門は社会人口学。国立研究所の研究員として「出生動向基本調査」の実施に携わり、データ分析を通じて家族や出生力の変化や将来見通しを示し、少子化社会の課題を論じてきた。分担執筆に『人口減少と少子化対策』『日本の人口動向とこれからの社会—人口潮流が変える日本と世界』など。



### 赤川 学(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

専門は社会問題の社会学、歴史社会学、セクシュアリティ研究、人口減少社会論です。著書に『子どもが減って何が悪いか!』『これが答えた! 少子化問題』(ちくま新書)、『明治の「性典」を作った男: 謎の医学者・千葉繁を追う』(筑摩選書)、『セクシュアリティの歴史社会学』(勁草書房)、『社会問題の社会学』(弘文堂)など。



### 石井 太(慶應義塾大学経済学部教授)

研究分野:人口学(死亡分析・数理人口学)、特に将来人口推計や死亡モデルの研究に従事。著作:『長寿化とその影響』(森田朗[監修])、『日本の人口動向とこれからの社会 人口潮流が変える日本と世界』第5章(国立社会保障・人口問題研究所[編])、『ポスト人口転換期の死亡動向』、『ポスト人口転換期の日本』第3章(佐藤龍三郎・金子隆一編著)



### 黒須 里美(麗澤大学国際学部教授)

専門は歴史人口学・家族社会学。宗門・人別改帳から構築した歴史人口ビッグデータを利用し、長期的・比較的視点から個人と家族と社会のつながりを研究。著書:『Similarity in Difference: Marriage in Europe and Asia, 1700-1900』(共著、The MIT Press, 2014)